

# 「保育の表現技術」科目系列の音楽（ピアノ）学習課題について ～到達度調査と授業に対するアンケートを通して～

The tasks of music(piano) studies in the category of expressive techniques of childcare  
～ through the achievement survey and the questionnaire on lectures ～

友廣 憲子

## 要旨

学習の質を高めるには学生の事前学習、学習への意欲、集中力の維持、授業後の振り返り（復習）がとても大切なことである。何より課題に立ち向かおうとする意欲、練習を継続する強い精神力が「保育の表現技術」系列の科目には必要である。そこで本稿では、入学時のレベル、登校に係る時間や楽器を持っているかどうか、童謡曲の合格曲数や教則本の合格曲数と成績との検証により、ピアノ学習の課題を考察することを目的とした。

その結果、教則本の合格曲数が多い学生はピアノの成績も良い学生が多く、合格曲数が少ない学生は成績も低いことや、保育1年生の童謡合格曲数の割合が2年生より高いことなどが分かった。

これらの結果から、学生がモチベーションを維持し教則本や童謡の合格曲数を増やすことで喜びを見出し学生の学習意欲向上に繋げていかなければならないと考える。

## キーワード

ピアノ学習 ピアノ技術 ピアノの基礎 到達度

## 1 本年度の授業背景について研究の目的

本年度の授業はコロナ禍の中5月中旬までオンライン、オンデマンドの授業が実施されることとなった。音楽（ピアノ）授業はオンラインレッスンを実施せず、対面授業が再開されてから回数が足りないところは補講を行いながら進めていった。休講期間の課題はオンデマンドで配信し、自宅で鍵盤楽器がある学生は課題を進めるように指示した。感染防止対策と安全確保の観点から学生の登校を許可できない状況で、この時期楽器を自宅に持っていない学生は大変不安だったのではないかとと思われる。

5月下旬より対面授業が開始され週に2回のレッスンと8月下旬まで授業を実施し、学生も教員も猛暑の中、夏休み返上でレッスンに追われることとなった。

学生は暑さにも負けずマスク着用で受講し試験に向けてそれぞれに努力することができたといえる。

今後も先の見えない中、また対面授業が出来なくなった時は「オンラインレッスン」についても検討する必要があると考える。オンラインレッスンは演奏技術が高い学生、例えば音楽大学の学生などには有効であるかもしれないが、右手の旋律と一緒にリズムをとりながら指導する必要がある学生にオンラインレッスンが有効かどうか。今後とも「オンラインレッスン」については保育系短期大学など実践されている学校の情報やオンラインレッスンそのものの研究が必要である。

今年度の現状は大変厳しいものであったが、本研究として保育者養成において主体的な学びを促すための「保育の表現技術」科目系列の音楽（ピアノ）授業のピアノ学習の課題を考察することを目的としたい。

## 2 音楽（ピアノ）に関する授業科目と内容と教材

(令和2年度)

科目名	内容	教材
子どもと音楽Ⅰa（ピアノ・楽典）	ピアノ個人レッスン 45分 楽典：一斉対面授業45分 オンデマンド授業も含む	バイエル・ブルクミュラー25番 練習曲他 保育者のためのピアノの基礎（コード） 幼児のための音楽教育（童謡）
子どもと音楽Ⅰb（ピアノ・楽典）	ピアノ個人レッスン 45分 楽典：一斉対面授業45分 オンデマンド授業も含む	バイエル・ブルクミュラー25番 練習曲他 保育者のためのピアノの基礎（コード） 幼児のための音楽教育（童謡）
子どもと音楽Ⅲa（ピアノ・楽典）	ピアノ個人レッスン 45分 楽典：一斉対面授業45分 オンデマンド授業も含む	実習先からの課題曲 幼児のための音楽教育（童謡）
子どもと音楽Ⅲb（ピアノ・楽典）	ピアノ個人レッスン 45分 楽典：一斉対面授業45分 オンデマンド授業も含む	ディズニー・ジブリ・クラシック曲 幼児のための音楽教育（童謡）

教材：ブルクミュラー18番練習曲・ソナチネアルバム1巻2巻・ソナタアルバム1巻も含む

(令和3年度)

科目名	内容	教材
子どもと表現（ピアノⅠa）	ピアノ個人レッスン 45分 子どもと表現（楽典Ⅰa）45分 （オンデマンド授業含む）	バイエル・ブルクミュラー25番 練習曲他 保育者のためのピアノの基礎（コード） こどものうた200
子どもと音楽Ⅰb（ピアノⅠb）	ピアノ個人レッスン 45分 子どもと表現（楽典Ⅰb）45分 （オンデマンド授業含む）	バイエル・ブルクミュラー25番 練習曲他 保育者のためのピアノの基礎（コード） こどものうた200
子どもと音楽Ⅲa（ピアノ・楽典）	ピアノ個人レッスン 45分 （オンデマンド授業含む） 楽典：一斉対面授業45分	実習先からの課題曲 幼児のための音楽教育（童謡）
子どもと音楽Ⅲb（ピアノ・楽典）	ピアノ個人レッスン 45分 楽典：一斉対面授業45分 （オンデマンド授業含む）	ディズニー・ジブリ・クラシック曲 幼児のための音楽教育（童謡）

Semesterに1単位のピアノの授業がある。1年前期に子どもと表現（ピアノ・楽典Ⅰa）があり、ピアノ指導者はSemester毎に交代し学生は卒業するまで4人のピアノ講師の指導を受講する。学生は90分の授業の中で12分～15分の個人ピアノレッスンを受講し、残りの時間はピアノ室で交代しながら（ピアノ台数の関係上）各自の練習時間に充てている。楽典は週に1回45分間～60分間一斉対面授業を実施し学習している。

## 3 研究方法

## 3.1 調査対象および時期

## (1) 調査対象 本学 保育学科

「子どもと音楽Ⅰa（ピアノ・楽典）」「子ども音楽Ⅰb（ピアノ・楽典）」を受講する1年生95名  
有効回答数：93名（97.8%）

「子どもと音楽Ⅲb（ピアノ・楽典）」受講する2年生96名 有効回答数：96名（100%）

(2) 調査時期：1年生 令和2年4月15日・令和3年1月22日 2年生 令和3年1月26日

### 3.2 調査方法

記名方式による質問紙調査を実施した。記名方式とした理由は学生の個人習熟度を把握するためである。

### 3.3 調査内容

(1年生)

- ・令和2年4月に調査とした内容
  - (1) 練習できる楽器を持っているか。楽器の種類について
  - (2) 登校にかかる時間
  - (3) 入学時のレベル
- ・令和3年1月に調査した内容
  - (4) 合格した教則本の数
  - (5) 弾き歌いができるようになった童謡曲数
  - (6) 毎日練習しているかどうか
  - (7) ピアノレッスンの感想

(2年生)

- ・令和3年1月に調査した内容
  - (8) 合格した童謡曲数
  - (9) 練習時間

### 3.4 調査への配慮

調査に対しては研究の主旨を説明し、プライバシーを保護すること研究項目として調査に協力してほしい旨を説明し実施した。

## 4 調査結果

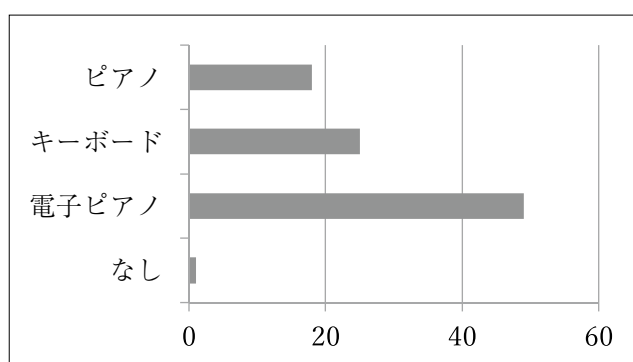


図1 楽器について

(1年生)

(1) 自宅に練習できる楽器をもっているかどうか。持っている場合、楽器名を調査した。

令和2年度の入学生は楽器をほとんどの学生が持っていることが判明した。(4月の当初は持っていないと答えた学生も年度途中に購入した学生も数に含んでいる)持っていない学生1名。

一番多く持っている楽器としては電子ピアノが多く50.5%、次にキーボード24.7%、ピアノ18.2%の順ということが分かった。

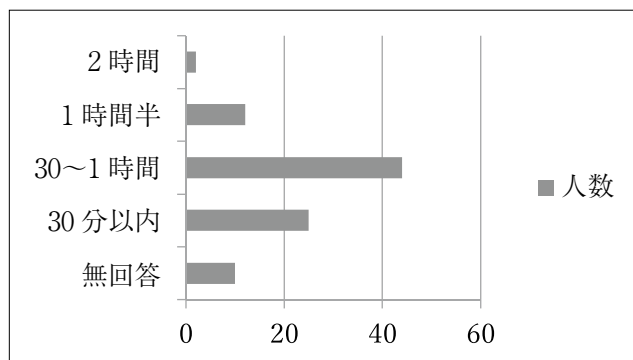


図2 登校時間

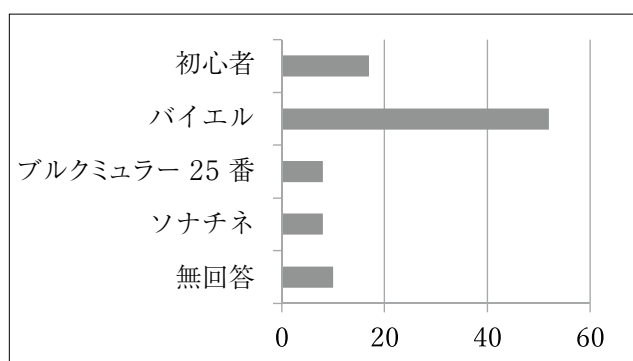


図3 入学時レベル

(2) 学校までの登校時間について

30分～1時間かけて登校してくる学生が45.1%、30分以内が26.8%、1時間～1時間半かけて登校してくる学生15.0%であり、2時間かけて登校してくる学生が2.1%いることがわかった。

本学はスクールバスがあり、このバスを利用している学生が多く、電車とバスで通学する学生が多いことがわかった。

(3) 入学時のレベル

レベルについては初心者が18.2%（17名）、バイエル55.9%（52名）、ブルクミュラー 25番練習曲8.6%（8名）、ソナチネアルバム8.6%（8名）であった。無回答と答えた学生は上記の教則本を使用していなかった為、回答していない。これらの学生は入学後バイエルの本でレッスン受講をしている学生がほとんどだった。

合格曲数	人数	(%)	
バイエル	2	14	1.5
	3	14	1.5
	4	5	5.3
	5	3	3.2
	6	2	2.1
	7	4	4.3
	8	3	3.2
	9	2	2.1
	11	3	3.2
	12	2	2.1
	14	1	1.0
	16	2	2.1
	19	3	3.2
	21	1	1.0
	27	2	2.1
	28	2	2.1
29	1	1.0	
30	1	1.0	
36	1	1.0	

図4 バイエル合格曲数

(4.1) 合格曲バイエル

1年間で最も多い合格曲数は36曲、30曲、続いて29曲合格している学生は93人中3.2%である。これらの学生は音楽的素養がある学生であり、自分で練習を進めることができた学生といえるだろう。反面1年間に合格曲数2曲の学生は Semester で1曲、前期後期試験曲のみ合格したことになり、童謡課題曲の弾き歌いに時間が割かれたピアノ初心者の学生であることがわかった。

1年間で20曲以上合格した学生が93名中1割でありこれらの学生は非常に努力したといえる。

合格曲数		人数	(%)
ブルクミュラー 25 番練習曲	1	3	3.2
	2	2	2.1
	3	5	5.3
	5	3	3.2
	6	4	4.3
ブルクミュラー 18 番練習曲	1	3	3.2
	2	2	2.1

図5 ブルクミュラー 25 番練習曲合格曲数  
ブルクミュラー 18 番練習曲合格曲数

(4.2) ブルクミュラー 25 番練習曲と 18 番練習曲

ブルクミュラー 25 番練習曲についてはバイエル終了後に使用している教則本であり、合格曲数 6 曲の 4.3%、5 曲 3.2%、3 曲が 5.3%となっている。

ブルクミュラーの曲はバイエルよりカンタビレで演奏することが必要であり、バイエルより表情豊かに演奏することが求められ図5のように合格曲数は少ないことが分かった。

合格曲数		人数	(%)
ソナチネ アルバム I	1	2	2.1
	2	4	4.3
	3	4	4.3
	4	2	2.1
	6	1	1.0

図6 ブルクミュラー 25 番練習曲合格曲数

(4.3) ソナチネアルバム

ソナチネアルバムについては楽章ごとに1曲とカウントしている。楽章2曲合格と楽章3曲の合格が同じく4.3%となっている。ブルクミュラー 25 番練習曲が終了後ソナチネアルバム I 巻を中心に学習している学生が13.9%いることが分かった。

合格曲数		人数	(%)
童謡	13～15	8	8.6
	16～20	6	6.4
	21～25	22	23.6
	26～30	30	32.2
	31～35	17	18.2
	36～40	7	7.5
	41～45	3	3.2
	46～50	5	5.3
	51～55	0	0
	56～60	1	1.0

図7 童謡弾き歌い合格曲数

(5) 弾き歌いができるようになった童謡曲数について

93 名中、3 割の学生は1年間に26 曲～30 曲合格し、2 割の学生が21 曲～25 曲合格している。

すなわち、5 割の学生が20 曲以上30 曲未満童謡曲を合格していることがわかった。

はい	27 人
いいえ	66 人

図8 毎日、練習しているかどうか

(6) 毎日の練習について

毎日練習しているかどうかの質問に対して、はいと答えた学生は3割であった。3割の学生はピアノ成績優秀者であることが調査によってわかった。

(7) ピアノレッスンの感想（抜粋）

- ・教則本の曲を暗譜することは難しかった。
- ・自分に合った弾き方を教えてもらったので高校の時よりやりやすかった。

- ・童謡中心でリズムを知っているので弾きやすかった。
- ・週に2回のレッスンは大変だった。
- ・逃げずにピアノと向き合うことができた。
- ・初めから歌いながら練習するようになった。
- ・譜読みを大切にするようになった。
- ・練習すればするほど弾けるようになり楽しかった。
- ・楽譜をみても何調かわからなかったが楽典の授業で少しわかるようになった。
- ・自分（私）のペースで進めてくれたのでよかった。

(2年生)

合格曲数		人数	(%)
童謡	15～20	1	1.0
	21～25	11	11.4
	26～30	10	10.4
	31～35	20	20.8
	36～40	19	19.7
	41～45	9	9.3
	46～50	8	8.3
	51～55	10	10.4
	56～60	5	5.2
	61～70	5	5.2
	71以上	2	2.0

図9 童謡弾き歌い合格曲数 (2年間)

(8) 弾き歌いができるようになった童謡曲数について (2年生)

学生の中には70曲以上の童謡曲数を弾き歌いできるようになった学生が2.0%いる。50曲以上の合格曲数の学生は全体の22.9%である。

また、2年間で31曲～40曲が46.8%いることがわかった。

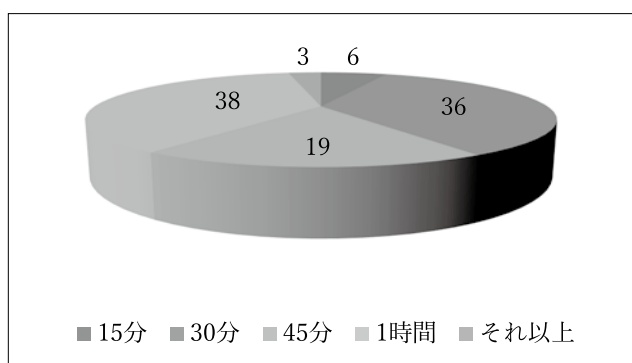


図10 平均練習時間

(9) 平均練習時間

30分～45分練習しているのが5割いることがわかった。前日のみ練習している学生が多くいることも調査からわかったことである。

## 5 考察

(1) 楽器を持っているかどうか

今回1年生に調査をしてみて楽器を自宅に持っていることがわかった。持っていない1名の学生は本学敷地内の寮に住んでいる学生であり本学のピアノで練習することができている。本学の1年生に関しては今後、オ

「保育の表現技術」科目系列の音楽（ピアノ）学習課題について～到達度調査と授業に対するアンケートを通して～  
オンラインレッスンをする場合可能であることがわかった。

1年生の学生は楽器を持っていることで2年生より童謡合格曲数の割合が多いことがわかった。自宅で自分のできる時間に練習ができることが要因の一つといえる。コロナ禍で2年生の実習時期が長期にわたり（8月～10月中旬）1年生が本学のピアノ室を独占でき、練習環境が整っていたからともいえるだろう。（図1）

## (2) 登校時間の調査

授業開始前にピアノを練習することが可能な学生は30分程度でありで学校に到着できる学生たちと自家用車で時間に拘束されず登校できる学生であるといえる。本来、脳が疲労していない朝にピアノを練習するのが良いとされ、夜遅く練習するより脳がはっきりしているうちに（聴覚に影響）練習するべきである。学生の中にはスクールバスを利用している学生がいて、そのような学生は9時10分の授業に間近に到着し授業を受講している。

今回の調査で往復に時間のかかる学生は自宅で練習していることがわかった。

ピアノレッスンの時間は短時間である。毎回受講してよかったと思わせるようなレッスンを実践するよう来年度も引き続き、一人一人を大切にレッスンしていくことを心掛けていきたい。（図2）

## (3) レベルと教則本の合格曲についての関連性

1年生は今回初心者の学生16名。成績は優の成績の学生が10名、良が4名、可が2名だった。

自分のレベルに対して「他の学生は上手な人ばかりで入学当初は不安でしかたなかったが、頑張っってよかった」という感想を述べている。16人中10人が優（80点～89点）であり努力したといえるだろう。

バイエルの学生が大半を占める。バイエル50番台から開始する学生も伸び悩みに涙しながら必死に頑張った学生が多かった。バイエルは80番以降進めば進むほど演奏するのが難しく練習意欲も減少することがある。ブルクミュラー25番練習曲を終了するとソナチネアルバムに入るにはもう少し技術的な力が欲しい時に与える教本ブルクミュラー18番練習曲がある。ブルクミュラーの曲はハーモニーがとても美しく作曲されて、バイエルより音楽的に弾きこなす技術が必要な曲集である。カンタビレで演奏することが求められるので合格曲はバイエルより少なくなる。

（図3・図4・図5・図6）

## (4) 童謡曲の合格曲について

レベル別に童謡の課題を教員が選曲し学生に課題曲を与えている。歌いながら演奏する「弾き歌い」はとても難しいものである。弾き歌いは脳から指令する神経が演奏のみ行う時とは別に必要であり、両手で演奏し、更に歌詞を暗記しようとする神経が必要であるように考える。

メロディーを歌いながら旋律を練習し、メロディーを歌いながら左手（伴奏）を練習するの必要があり、学生たちは大変苦労している。

2年生は童謡合格曲数を60曲目指すように指導してきた。

目標の曲数を低く設定することで到達できる達成感を体験してほしい意図がある。

2年時の前期は教育実習があり、幼稚園の実習先の課題を指導することを教育目標に掲げている。バイエル程度やブルクミュラー前半程度のレベルの学生にとっては教育実習の課題曲はとても難しい。例年、ゴールデンウィークにオリエンテーションがありおよそ1ヶ月で練習している。この期間は実習課題曲のみ練習する期間となっているため童謡曲の合格曲数の伸び悩みの原因の一つであるといえる。（図7・図8）

## (5) ピアノレッスンの感想について

学生の感想については授業（レッスン）について高評価の感想が多かった。学生の中には初心者やバイエル前半の学生が多くいて、ピアノに対する不安感が強い。しかしながら個人レッスンでの学びが「学生（自分）

のペースで進めてくれる」という評価から、1週間で学生が練習できる課題を指導者が与えた結果であるかもしれない。「不安だったけれど優しく丁寧に指導してくれた」との感想も多かった。

2年生に対して平均練習時間を調査したが、1週間で何日練習しているのかというところまで調査しなかったのが残念である。担当学生に聞くと毎週水曜日にレッスンがある学生は「火曜日と今日しました」という学生がいる現状もある。次回は週に何日練習し、どれくらい練習しているのか両方セットで調査し改善点を検討すべきだということが改めてわかった。

## 6 まとめ

入学して2年後保育現場で童謡の弾き歌いができる技術はどれくらい必要だろうか。

ブルグミュラー 25 番練習曲の 15 番以降からソナチネアルバムを演奏する技術があれば童謡曲の弾き歌いは容易であると考えられる。年々、ピアノ初心者の入学者は減少し、バイエル 50 番前半で入学してくる学生が増加している。それらの学生に卒業後、保育現場で弾き歌いをスムーズにできる技術まで教育するのは大変難しく苦慮している現状がある。幼少から音楽教室に通った経験のある学生や吹奏楽の経験があり音楽的素養がある学生は演奏技術の向上も早く、いわゆる曲を攫むことが上手であり合格する進捗が早い。反対に幼少から音楽に親しんでいなかった学生はバイエルを終了させることが非常に難しい。

素養もさることながら結局は学生 1 人一人がどれくらい練習時間を確保してピアノに向き合うか、学生本人が努力することしかピアノは上達しない。そこで、学生のモチベーションを維持させながら、「音楽は楽しい」「ピアノが好き」「練習しよう」という気持ちにさせるためにはモチベーションを維持させる「仕掛け」が必要であり、今回の調査の結果から更に研究する必要性を感じた。

本稿では保育学科 1 年生が 1 年間にピアノ授業に関するアンケート調査と到達度調査と成績から、2 年生には 2 年間での童謡合格曲数と練習量などのアンケート調査からピアノ学習課題の検証を行った。1 年生の成績は前期 60 点～69 点 17.8%、70 点～79 点 23.1% 80 点～89 点 47.3% 90 点以上 11.5%であり、後期は 60 点～69 点 23.6%、70 点～79 点 37.6% 80 点～89 点 27.9% 90 点以上 10.7%の割合であった。前期より後期では 60～69 点の学生が 5.8%増加し、80～89 点の学生が 19.4%減少している。後期は短期間で 15 回の授業を実施し十分に曲を熟成させる時間は例年より少なかった、そのために 80 点台の学生の割合が減少したと考える。今後は授業の期間をもとに戻すこと、更なる合格曲数を増やすためのモチベーションを維持させ、合格曲数が増えることによって技術も向上でき、音楽に対する喜びに繋がるようにしていかなければならない。

レッスンの方法は概ね高い評価でありシステムとしては来年度も継続していきたい。

モチベーションを維持するための「仕掛け」については到達度カードを作成し、自分の到達度を可視化できるようにしているが今後は到達度カードの合格曲数が一番多かった学生を表彰する等、努力に対して表彰する機会を与えていきたい。

今後もより良い授業内容の充実を図り、指導は「たくさん誉めることはしても注意は少し」をモットーに教育指導していきたいと考えている。

## 7 参考文献

- 1 津山美紀 北嶋季之 (2021)「教育者・保育者養成におけるピアノ学習の実態に基づく課題」東筑紫短期大学 音楽研究 第8号
- 2 大村典子 「典子のハートフル・コミュニケーション」(2002) 音楽の友社
- 3 青木理恵 「子どもを伸ばす コーチング・ピアノレッスン」(2008) YAMAHA
- 4 久原 宏幸 (2021)「ループリック評価を活用した歌唱指導についての一考察 その2」中村学園大学短期大学部 音楽研究 第8号